



# とうきょう すくわくプログラム

## 2025年度活動報告書

板橋雲母保育園高島平



### テーマ【健康な身体を作る食と取りまく環境について】

#### 設定した理由・背景

園児から、「どうしてご飯をたべると元気になるの?」と質問があった。これをきっかけに身の回りの食材の役割について調べた。また、食事の前に手洗いをしない子が「僕の手は何もついてないよ」と話していた。食を取りまく環境の一つとして手指の衛生に着目し、見える姿に出来ないか考えた。

#### 用意した環境設定

三色食品群の絵本・ホワイトボード  
標準寒天培地・精製水

### 活動のあゆみ

- ・4月～3月：毎日給食の前に三色食品群の色分けを行った。
- ・2月：その日の献立で取り上げられた栄養素に関する絵本を読み聞かせた。
- ・12月～3月：手指の衛生に関する導入として月に1度手指の衛生に関する実験を行った。

### ✧探究活動の実績✧

- ①【三色食品群】園児対し、「この給食は何のために食べているのかな?」と問いかけた。  
【手指の衛生】手洗いをしない子に対し、「このままご飯を食べたらばい菌さんも食べてしまうよ?」と問いかけた。
- ↓
- ②【三色食品群】問いかけに対して答えられない子がいた。保育者が「ご飯を食べると元気になれるよ」と言うと、「どうしてご飯を食べると元気になるの?」と疑問が生まれた。ご飯にはいろいろな役割がある事を伝えると、「これは何になるの?」「これを食べたから早く走れるよ」などと三色食品群に興味を持ち始め、色分けを始めた。  
【手指の衛生】「僕の手には何もついてないよ」と返し、目に見えない菌に実感が湧かない様子だった。目に見えない菌がいることを話すうちに、「見てみたい」と言う声が上がってきた。園でも実施できそうな内容を調べ、手指の衛生に関する実験を行う事にした。
- ↓
- ③【三色食品群】色分けが習慣化すると、食材に対して関心が強くなった。「今日の食材の色はなんだろう」と考える姿が増え、友だち同士で「赤かな?」「黄色だと思う!」などと考えを共有し合う姿が見られた。  
【手指の衛生】見えないものを扱うため、丁寧に導入を行った。手洗いチェッカーで洗い残しを確認したり、食パンを使用して菌が繁殖する様子を観察した。どちらも目に見える形になる事で驚く様子や「すごい」「気持ち悪い」などと反応する姿が見られた。その後、培地について話し、観察を行うと「寒天培地ってどうやって作るのかな」「寒天培地を作ってみたい」などと興味を強く示した。
- ↓
- ④【三色食品群】毎日継続して行う事で、食材を正しく色分け出来るようになった。また、それぞれの食品が持つ栄養素に興味を持ち、知ろうとする姿が増えた。  
【手指の衛生】目に見えない菌に対して見てみたいと関心を持つようになった。培地という身近にないものを取り扱ったが、子どもたちの関心が強く、「やってみたい」と言う声が上がってきた。また、手洗いの歌を歌いながら手を洗う様子が見られるなど、衛生に関する意識が高くなった。



保育者が絵本を読み聞かせる様子



ホワイトボードを使用して座学をする様子



標準寒天培地の匂いを嗅ぐ様子

### まとめ

【三色食品群】テーマ食材を三色に分ける活動を毎日継続して行ったことで、子どもたちが色についてより興味を持つ姿を見ることが出来、保育者の助けがなくても色分けが出来るようになったことから、継続して行うことの重要性を感じた。今後も継続して三食食品群を取り入れた活動を行っていきたいと考える。また、「沢山食べると元気になるよ」とは具体的にどのような事なのかを知る事で、自分自身の健康についても関心を持つようになった。一見難しい内容も絵本などを活用し、毎日活動に取り入れる事で、正しく色分けが出来るなど知識が定着したため、図書館で身体についての絵本を探しに行く戸外活動を検討していきたい。

【手指の衛生】手洗いチェッカーやホワイトボードなど可視化できる媒体を使用したことで普段より子どもたちの反応や関心が高いという事に気が付いた。また、スモールステップで手指の衛生について伝えていく事で、子どもたちの理解が追いつくと共に、幼児クラスだけでなく乳児クラスも参加できることに気が付いた。「寒天培地を作ってみたい」という声が多く上がったことから、寒天培地の培養や観察を行った培地を利用して様々な菌の培養を行っていききたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

板橋雲母保育園高島平



### テーマ【自然、生物、他者とのコミュニケーション】

#### 設定した理由・背景

子どもたちが戸外活動を楽しんでいる時に綺麗に咲いている桜を見て「お花見をしたい」という声掛をきっかけに身近な自然探索をするようになった。また、姉妹園交流の話をすると「どんな友だちなんだろう」という話から新しく出会う友だち中で気持ちをどうやって伝えればいいかを探究した。

#### 関わる用意した環境設定

スマートフォン・ラミネーター・のり・虫かご

### 活動のあゆみ

4月～3月

- ・季節の生き物、自然物について探究した。
- ・自園以外の姉妹園の子どもと交流し、自分の気持ちの表現の仕方を探究した。

### ※探究活動の実績※

①園児に対し、「他にはどんな花があるかな?」と問いかけた。

また、奥多摩で自然探究を予定していたため、「一緒に活動するお友達と仲良くするにはどうしたらいいかな?」と問いかけた。

②「この花は何?」「これで何か作ったらいいんじゃない?」という子どもたちの提案があがったが行き詰まってしまった。保育者が押し花を提案すると子どもたちから「作ってみたい」という声があがった。

姉妹園との交流に向けた問いかけに対し、子どもたちは難しい表情を浮かべ、答えることが出来なかった。保育者が「みんなはお友だちの事を知らないし、お友だちもみんなの事を知らないから自己紹介をしてみたらどう?」と提案をすると、子ども達からは「どんなお話をしようかな?」「心配だな…」と声があった。保育者は「じゃあ、練習をしてみる?」と問いかけると「やりたい!」と声があがった。子ども達は友だちに何を紹介したいのかを考えていった。

③戸外散策や散策で得た花での制作を通して、身近な自然物に対して興味が高まってきた。「もっと作ってみたい」という子どもたちの話から身近な自然物を注目するようになった。また、子どもたちから「熱帯館に行けば珍しいものがあるんじゃない?」「奥多摩では何があるんだろう」と話をするようになり違う環境にある自然物にも関心を持つようになった。

実際に探求活動を行うと「葉っぱの色が違う!」「葉が落ちて、緑色だ」と保育園の近くにある公園などの身近な自然物と違いに気が付いていた。また、川魚を捕まえようとすると「魚って逃げるのが早いね」「こんなちっちゃいんだ」と話し、熱帯館でガラス越し見ていた魚との違いに気が付いた。

また、自己紹介の練習をしたことで奥多摩で初めて会った友だちに自信を持って伝えることが出来た。自信に繋がったことで姉妹園交流で一緒に遊ぶことや仲良く話をして「一緒に遊ぼう」「これ見て!」とみんなと話すようになった。

④毎日の活動の中で自然物に触れ、遊びや制作に自ら発展させることが出来るようになった。木の実を見つけると集めてごっこ遊びをしたり、花や葉をすり潰して色を出してジュース屋さんになっていた。また、年間を通して自然物に対して興味を持つようになった。どんぐりは落ちて場所によって形が違うことに気が付いていた。どんぐりが出てくる絵本を読むと自分で見つけたどんぐりを思い出して「このどんぐりひろった」と話してそのどんぐりの名前を知ろうとしていた。

また、名前を知らない花を見つけると観察してどんな花なのか友だちと意見を出していた。保育者と花の名前を調べると後日その花を見つけると名前を覚えて知らない友だちに教える姿が見られた。自然物を通して意見を交わし合うようになった。自分が知っているものなのか、何に似ているのか話す姿から語彙力の豊かさや相手に配慮しながらの言葉選びの上達を感じられた。



子どもが探索で見つけた葉や花を画用紙にのりで貼る様子



子どもがお泊り保育の探索活動で保育園周辺との違いを見つけながら探している様子



探索活動で生き物を見つけ、友だちと一緒に観察している様子

### まとめ

今年度は自然物に興味を持つことが出来たため、来年度はより多くの自然物を見つけ、子どもたちで図鑑など調べるような探求心が持てるようにしたい。また、今年度は園児たちが自分で拾ってきた自然物で制作を行った。制作を通して自由な表現方法を知ることが出来た。来年度は、テーマを決める段階から子どもたちの興味関心をより深く受けとめ、それに沿った自然物を拾い、使った自由な表現方法が出来るようにしていく。それを実現できるように導入や保育者が発信を行っていき発想力や創造力を深めていけるような活動を行っていきたい。



テーマ【 生き物の成長 】

設定した理由・背景

園内で飼育していたおたまじゃくしがカエルに成長した様子や死んでしまった理由について子どもたちが興味を持ち、生き物を観察していく中でその成長や生命の仕組みについて探究したいと考えた。

用意した環境設定

メダカ、メダカ飼育セット一式、探検バック、日記帳

活動のあゆみ

10月～3月 生き物観察

園周辺の施設、散歩先で色んな場所に行き、生き物について探究する。

同時に図書館に行き、生き物の図鑑や飼育方法についての本を借り調べながら関心を深める。

11月～3月 繰り返し絵日記をつける

メダカを園で飼い、メダカの生態について探究する。

※探究活動の実績※

①園内で飼育していたおたまじゃくしがカエルに成長した様子を見た子どもたちに「どうしておたまじゃくしはカエルに変わったの？」また、死んでしまったカエルに対して「どうして死んじゃったのかな？」と問いかけた。

↓

②子どもたちからは「お腹が空いてたのかな？」「病気になっちゃったのかな？」等の声が返ってきた。保育者が「じゃあ、熱帯植物館に行ってみたら何か分かるかもしれないから行ってみる？」と聞くと子どもたちは嬉しそうに「行きたい」と答えたため、近隣にある様々な生き物を飼育している「熱帯植物館」に行った。様々な生き物を観察日記に記録し、生態について図鑑や絵本で調べていくうちに、「保育園でも飼ってみたい」という声は徐々に上がるようになった。家庭でも飼育しやすいメダカの存在を知り、園でメダカの飼育を始めた。

↓

③まず、メダカを飼う準備として水づくりを行った。子どもたちは「なんですぐメダカを入れないの？」と保育者に尋ね、「今はメダカさんが元気に過ごすためにおうちの中を綺麗にしたり、元気に過ごせるように準備してるんだよ。」と答えると、「ああ～〇〇ちゃん達がうちのお掃除するみたい？」などと保育者に話す子もいた。水槽でメダカを飼い始めると、「きれい」「気持ちよさそうに泳いでるね～」「長生きするかな？」などに関心はより高まり、毎日登園時に保護者にもメダカの様子を話す子どもが多く見られた。また、中にはメダカに名前を付けていた子どもも見られた。そして、メダカのお腹を見て膨らみがある事に気づき、それを元に図鑑を見始めメダカの生態に興味を持ち色々な発見をしながら探究活動に取り組んでいた。

↓

④子どもたちは毎日メダカの様子を観察する習慣が付き、外気温が大きく変動した日にはメダカに影響がないかと心配する様子も見られた。中には、「パパが水を温かくする機械があるって言ってた」などと保育者に得意げに話をする子どももいた。餌やりも自ら「やりたい」と保育者に話し、餌の適量を守りながら当番制度を提案し、子どもたち自身で行うことが出来るようになった。



熱帯館にて様々な生き物に親し  
みを持ち観察する様子



図鑑を使いながら、生態調べを行う様子



園内にてメダカ観察をする様子

まとめ

どうすれば子どもたちがよりこの活動に興味・関心を持ち楽しめる活動になるのかを職員全員で話し合い、まずは生き物にはあらゆる種類の生き物がいるということを知ってもらうことから始めることにしました。その1つとして、近所にある「熱帯環境植物館」に何度も足を運び、様々な生き物に触れてみました。非日常的な空間に目を輝かせて、子どもたちの興味・関心がぐっと高まるのを感じることが出来ました。初めは、ただ「綺麗」「かわいい」という声が多く見られましたが、徐々に回数を重ねるうちに生き物の名前を覚えたり、「ご飯は何を食べてるの？」など子どもたちから様々な疑問の声が上がるようになりました。そこで、観察方法をスケッチに変えてみました。最初は動く生き物を絵に表すのはとても難しく、困った表情を浮かべる子どもも少なくありませんでした。その為、まずは図鑑や絵本の静止画を真似て描くところからはじめ、自由に描くことの楽しさを感じるというところからフォーカスして、スケッチの導入活動を行いました。回数を重ねるうちに、迷いは消え、すらすらと描けるようになりました。繰り返しの活動が子どもたちの自信に繋がり、それが「またやりたい」という意欲にも繋がるのだと改めて感じる事ができました。来年度はメダカの孵化などにも挑戦し、引き続き生き物への探究活動を行っていききたいと思います。